６月24日　ルカによる福音書６章17～26節　【解説と黙想】

幸いと不幸

17～19節には、主イエスが来られたことによって始まった神の国の恵みが記されています。イエス様に出会い、その教えと御業に触れる人は、病や汚れた霊から解放されました。私たちも主イエスによって罪と死からの解放という神の国の恵みに与るのです。

キリストにおいて始まった「神の国」は「神の恵みの支配」と言い換えることが出来ます。キリストによる神の国に生きる弟子たちは、何が幸せで不幸かについての価値観がこれまでと違ったものになります。

富によって慰められること、満腹していることによって笑って生きること、また人々から称賛されることを幸いとする生き方は、キリストによる神の国を知らない生き方です。それは世の価値観に自分を合わせ、自分の財を増やして楽しんで生きることを幸いとする生き方です。しかしイエス様は、それは不幸だと言われました。なぜなら、キリストを知らなくても富や人々の称賛によってすでに満たされ、神の国を求める必要を感じることがなく、神の恵みによって満たされることがないからです。そのままではやがて神様によってしか満たされない飢え渇きに直面して悲しみ泣くようになってしまいます。勿論これは経済的な貧しさが幸いで、富むことが不幸だと短絡的に言っているのではありません。経済的に富んでいても神様からの慰めを求めることはありますし、貧しくても神様の慰めを求めないこともあるからです。キリストに背を向けて富んでいてもそれは不幸だということが言われているのです。

しかしたとえ貧しくても、今飢えていても、今泣いていても、キリストに出会い、その恵みに触れる人は、やがてキリストによって神の国を得、満たされ、笑うようになります。神様が慰めて下さるからです。

22節では主に従うために憎まれ、追い出され、ののしられ、汚名を帰せられるとき、幸いだといわれます。主イエスが言われたとおり、キリスト教はその歴史の最初から迫害を受けることになります。主イエスがここで挙げておられるような苦難・生活上の不利益を、多くのキリスト者たちが経験してきました。ですからこの御言葉は、苦難の中にあるキリスト者たちを慰め、彼らに神様からの幸いと祝福を告げるものとなったに違いありません。

主イエスは逆に、信仰を捨てたりごまかしたりすることで富み、満腹し、笑い、人々からほめられたとしても、それは不幸である、と言われます。今日の日本社会でも、キリストに従っていくことには様々な苦難を伴います。家族や周囲の人々の理解を得ることが難しいこともあります。私たちは大なり小なり何らかの犠牲を払いながら、キリストの弟子として生きるのです。主イエスはそのような私たちの労苦と想いを、すべてご存知です。そして一人一人に「幸いである」と言って下さるのです。

主イエスは、今の状態が、将来ひっくり返されることを明らかにしつつ、今の状態に心を奪われずに、神様から「よくやった、良い忠実な僕よ、さあ、喜び祝おう」と言っていただける将来の希望に心を向けて、主に従っていくように私たちを導かれるのです。　（金原義信）

《参照箇所》　創世記５：24、マタイ25：31～46
《教理問答》　「子どもと親のカテキズム」問１, 39

６月24日　ルカによる福音書６章17～26節　【説教展開例】

幸いと不幸

◇…… 単元のねらい ……◇

主イエスは私たちの悲しみや苦しみを背負ってくださるお方であること。だからイエスさまを信じてイエスさまと共に歩むことが本当の幸いであることを語る。イエスさまから離れてこの世の冨で自分を満たして笑っていても、それは不幸であること、今貧しく飢えていても、迫害に苦しめられていても、主と共に歩むところに本当の幸いがあることを伝えたい。また最後に、ルカ福音書が描くどんでん返しがここにもあらわれていることを説教に生かすことが出来れば良いと思う。この世と終末とで幸いと不幸が逆になるのです。

「本当の幸せってどこにあるの？」

イエスさまの所には、大勢の人たちがユダヤのあちらこちらから、ユダヤだけでなく遠い外国からもやってきました。イエスさまのお話しを聞きたいと思ってやってきた人たちも、病気を治していただくために来た人たちもいます。それから、悪い霊に取りつかれて苦しんでいた人たちもイエスさまの所にきて助けていただきました。みんな何とかしてイエスさまに触れようとしました。イエスさまに触れた人は、みんなイエスさまの力で病気が治ったからです。今、イエスさまは目に見えないけれど、私たちと一緒にいてくださいます。そしてどんなときも私たちを守ってくださっています。私たちが悲しいときも苦しいときも、イエスさまは私たちのことを知っていて、一緒にいてくださっています。イエスさまのことを信じる人は、いつもイエスさまが守られて最後には天の御国に入れていただけるのです。

ところでみんな、ものすごいお金持ちになったらどうする？　毎日大好きな御馳走をいくらでも食べることが出来て、いつもお腹いっぱいでいられるね。欲しいものは何でも買えるよ。大きな家を建てて、そこに住んで、どんなゲームでも買えるし、きれいな服もたくさん買えるよ。それから好きな所に旅行に行けるね。毎日今日は何を買おう、何を食べよう、どこへ遊びに行こう、とっても楽しくて笑って暮らせるね。とっても幸せだって、普通は思うでしょう。

ところがイエスさまは、それは不幸だと言われました。幸せではないっていわれるのです。どうして不幸なのでしょう。お金で好きな物を一杯買って遊んで、でも大事なことを忘れていませんか。そう、イエスさまのことを忘れています。楽しくて心がいっぱいになっているから、イエスさまが一緒にいてくださることがどんなに嬉しいことか、分からないからです。それに、だれでもみんな年をとって、いつか死ぬときが来ます。そうしたら、どんなにお金があっても、もう使うことはできません。そのときに、イエスさまが一緒にいてくださらなければ、ひとりぼっちになってしまいます。本当にさみしいこと、悲しいことです。

あるときイエスさまはこんなたとえ話をなさいました。ある金持ちがいました。いつもきれいな着物を着て、毎日おいしいご馳走を食べて、遊んで暮らしていました。このお金持ちは大きな家に住んでいましたが、その家の前に、ラザロと言う貧しい人がいつもすわっていました。ラザロには毎日食べる物を買うお金はありません。きっと住む家もなかったのでしょう。ラザロはこの金持ちの家の前に来れば、食べ物をもらえるかもしれない、余った食べ物が道端に捨てられているかもしれない、そう思ったのでしょう。このお金持ちの家の前に来て、お腹がすいたからでしょうか、横になっていたのです。体にはプツプツができていました。もちろんお医者さんに診てもらう

お金もありませんから、治すこともできません。きっとどんどんひどくなっていったに違いありません。かわいそうに、そのプツプツを、犬がやって来てはなめていたというのです。でも、ラザロには犬を追い払う力もありませんでした。

その家に住む金持ちは、ラザロを助けてあげようとはしませんでしたし、医者に連れて行くこともしませんでした。ラザロの事なんか少しも気にしていなかったのです。お金持ちは自分たちだけお腹いっぱいに食べて、笑って過ごしていました。ラザロはお腹がぺこぺこで、しかも犬にまでなめられて、悲しかったことでしょう。とうとうラザロは死んでしまいました。だれもラザロが死んでも悲しまなかったと思います。それからしばらくして、このお金持ちも亡くなりました。お金を一杯使った立派な、盛大なお葬式が行われました。

どう考えても、お金持ちの方が幸せで、ラザロの方が不幸だと思うでしょう。ところがお金持ちは、死んだ後、神さまから離れた、とっても苦しい所に行きました。一方ラザロは死んだ後、天使たちに、神さまの国の宴会に連れて行かれました。ラザロは神さまを信じていたのですね。

どんなに今楽しくぜいたくに暮らしていても、楽しく遊んで暮らすことに心がいっぱいで、イエスさまのことを忘れてしまったのでは何にもなりません。イエスさまと一緒にいるのでなければ、それは不幸なのです。だって、最後はここに出て来たお金持ちのように、神さまから遠い所で苦しまなければならなくなってしまうからです。どんなに貧しくても、イエスさまが一緒にいてくださるなら、それが一番幸せなのです。

貧しい時も、たくさん財産があるときも、楽しい時も、悲しい時も、どんなときにもイエスさまが一緒にいてくださることが幸せなのです。イエスさまの代わりになる人も、代わりになるものもありません。たくさんのお金も、立派な家も、きれいな服も、いつもおいしいご馳走が食べられることも、イエスさまの代わりにはなりません。イエスさまが私たちのことを大切に愛して下さっていることをしっかり信じていくことが何よりも大切なのです。どんなに貧しくても、イエスさまが一緒にいて下さるからです。

ところでイエスさまを信じて教会に来ている人は、みんなの学校・クラスで何人くらいいるでしょうか。多分ほとんどいないと思います。それくらい、日本ではイエスさまを信じる人は少ないのです。でも、だからこそみんなが今日この教会に来ていることはとっても素晴らしいことなのです。もしかしたら、ここにいるみんなの中にも、日曜日に教会に行くって知った友達から、冷やかされた人もいるのじゃないかな？珍しがられるかも知れません。今までにもたくさんの人たちが、イエスさまを信じたために笑われたり、悪口を言われました。それだけではありません。イエスさまを救い主だと信じて教会に行ったために、牢屋に入れられた人たちもいました。イエスさまが地上で働かれたすぐ後の頃でしたが、ローマ帝国の皇帝が、イエスさまを信じる人たちを牢屋に入れたり殺したりしたことがありました。ローマの皇帝は神さまとされていましたから、ローマ皇帝を拝まないで、イエスさまを礼拝するクリスチャンたちは憎まれたのです。

今、この時も、世界の中にはイエスさまを信じたために牢屋に入れられたり殺されたりする人たちもいます。イエスさまを知らない人から見れば、不幸な、かわいそうな人たち、と思うでしょう。でもイエスさまは、「天には大きな報いがある」と言われました。イエスさまを信じているっていうことは、その人はイエスさまの弟子だっていうことです。イエスさまはその人のことをとても喜ばれるのです。そしてどんな時も、イエスさまを信じている人に、イエスさまはとっても素晴らしい約束をしてくださっているのです。神さまは、イエスさまを最後まで信じた人を、「よくやったね」といって天の御国に迎え入れてくださるのです。（金原義信）

《今週の暗唱聖句》

貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。（ルカによる福音書６章20節）

６月24日 【幼稚科】

幸いと不幸

〈ねらい〉

本当の幸福・不幸は、この世の尺度ではわからない。聖書が語る本当の幸いを求めよう

〈展開例〉

みんなはどんな人が幸せな人だと思うかな。

（お金持ち？　頭のいい人？　かっこいい人？　きれいな人？……）

では反対に、どんな人が不幸せな人だと思うかな。

（貧乏な人？　頭の悪い人？　かっこ悪い人？　みにくい人？……）

聖書は、どんな人が幸せだって書いてあるか見てみよう。

「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。」（ルカ６章20節）

なんだか不思議なことが書かれてあるね。貧しい人が幸いなんて、普通は思わないよね。普通は、貧しい人は不幸せで、お金持ちが幸せだって思うよね。

でも、よく考えてみてほしんだ。お金持ちはみんな幸せなんだろうか。逆に貧しい人はみんな不幸なんだろうか。

実は、そうじゃないんだね。この世界にはお金持ちでも不幸な人はいるし、そして、貧しくても幸せに暮らしている人もいる。

本当の幸せはその人が持っているお金の量では決まらない。それと同じように、その人の地位や外見の美しさでも決まらないものなんだ。

じゃあ、本当の幸せって何だろう。

それはね、イエス様だったら、どんな生き方をされたかな？

神さまに喜ばれる生き方ってどんな生き方かな？知りたいな～！

っていう気持ちが大切なんだよ。

そのために、教会で礼拝したり聖書読んで、賛美歌を歌ったりするんだね。

〈祈り〉

神さま、みことばをありがとうございます。みことばがよくわかるようにしてください。そして神さまに喜ばれる子どもにしてください。

〈やってみよう〉

・賛美歌　「歩こうイエスの道を」

・工作　「暗唱聖句カードを作ろう」
画用紙に聖句を書いてみよう。（ルカによる福音書6章20節～21節）
イラストを描いてみたり色を塗ったりしてみよう。

６月24日 **【小学科上級・中学科】**

幸いと不幸

1．イエスさまは今、どこにいらっしゃいますか。

2．周りには誰がいますか。

3．人々はなぜ、イエスさまのところへ来ましたか。

4．イエスさまは、どんな話をされましたか。

5．なぜ、貧しい人々は幸いですか。

6．なぜ、今飢えている人々は幸いですか。

7．なぜ、今泣いている人々は幸いですか。

8．どんな時に、喜び踊りなさい、と言われましたか。

9．どんな人が不幸だとイエスさまは言われましたか。

10．これらのイエスさまの話を聞いて、あなたはどう思いますか。

11．この世の幸せと、聖書が教える幸せは同じですか。

12．あなたは、今、幸せですか。